会　議　要　旨　録

会　議　名	令和４年度第１回三郷市子ども・子育て会議
開催日時	令和４年７月２６日（火）　１３時３０分開会
開催場所	三郷市　本庁舎６階　全員協議会室
出席者氏名 傍　聴　者	岡田会長、篠宮副委員、石原委員、永塚委員、山口委員、美田委員、和井田委員、渋谷委員、佐々木委員、小林委員、神谷委員 （欠席：笛木委員、上村委員、杉浦委員） ０名
事務局職員	須賀子ども未来部長、関根子ども政策室長、髙橋子ども支援課長、子ども支援課須永主幹、子ども支援課岡安主幹、中井すこやか課長、すこやか課玉江課長補佐、すこやか課黒木係長、子ども政策室野本主査 新型コロナウイルス感染防止のため、児童育成行動計画関係課職員は自席待機として対応。

会議次第

１．開　会
２．挨　拶
３．諮　問
４．議　事
（１）「第２次三郷市児童育成行動計画（後期）」の年間報告について
（２）「第２次三郷市子ども・子育て支援事業計画」の進捗状況等について
（３）「第２次三郷市子ども・子育て支援事業計画」（中間見直し）について
５．報告事項
・いなほ幼稚園の幼保連携型認定こども園への移行について
・三郷市子育て家庭における給食費等の負担軽減支援事業について
６．その他
７．閉　会

会議資料

資料１　「第２次三郷市児童育成行動計画全施策・事業実施一覧表」（年間報告）
資料２　「第２次三郷市子ども・子育て支援事業計画」（令和２年度～令和６年度）実績報告
資料３　「第２次三郷市子ども・子育て支援事業計画」の中間年の見直しについて

発　言　者	議　　題　・　発　　言　・　結　　果
	１．開会 ２．挨拶　（会長、部長挨拶） ３．諮問 ４．委員・事務局・出席職員紹介
事務局	本日の出席委員数は現時点で１４人中１１名、子ども子育て会議条例第６条第２項の規定により本日の会議成立を報告。
事務局	傍聴者なしを報告。
事務局	配布資料の確認。
	５．議　事
事務局	それでは、ただ今より議事に入らさせていただきます。議事の進行につきましては、子ども・子育て会議条例第６条第１項により、会長が議長となるとございますので、会長にお願いいたします。よろしくお願いいたします。
議長（会長）	それでは、議事に移ります。本日は、３点議題がございます。議題１「第２次三郷市児童育成行動計画（後期）」の年間報告について事務局からご説明をお願いいたします。
事務局	「第２次三郷市児童育成行動計画（後期）」の年間報告について説明。
議長	事務局から説明がありました。ご意見ご質問等があれば、お願いいたします。
委員	全体的に評価は良好ではないかと思います。三郷市の子どもたちの環境づくりに各課ご尽力いただいて嬉しく思います。プランNo.３、プランNo.２５、プランNo.７３についてお尋ねします。 プランNo.３家庭児童相談室の相談についてどんな児童問題の相談があるのか。少人数での親子教室「めだか教室」について参加している子どもの状況や、保護者の変化など、顕著な例があれば教えていただきたい。 プランNo.25 情報モラル教育の推進の「ネットトラブル予防」講座はどんな内容なのか。また受講後の児童生徒はどんな感想なのか。実施した14校以外の小中学校は、今後行うのか、お聞きしたい。 プランNo.73 らんどせるブックよもよも事業は、児童の興味関心を一層引き起こす上で大切だと思うが、どのような本が選ばれているか教え

	ていただきたい。
事務局	プランNo.３の家庭児童相談室は、令和２年度１，０４１件の延べ相談件数に対し、令和３年度が１，１４７件の延べ相談件数で約１０．２％増となっています。相談の種別は、環境福祉、家族関係、性格・生活習慣等、学校生活等、非行、心身障害、知能言語、その他の８分野に分けて統計を取っているところです。その他につきましては、ママ友関係や、ご近所のトラブル、夫婦関係などです。顕著に増えているのは、家族関係です。新型コロナウイルス感染症対策のため子どもが自宅にいる機会が多くなったことで、子どもへの接し方についての相談などは、令和３年度目立って多くなっています。令和２年度の２２２件に対しまして、令和３年度３４９件約１２７件の増となっています。めだか教室は、主に乳幼児の保護者からお子さんの発達についてご相談を受けたり、月に２回簡単なプログラムを通して、保護者同士の交流の場となるよう開催しているところです。そのあと相談をしやすくなって、別の機会で保健師や家庭児童相談室の職員ともつながりやすくなったという話は聞いているところです。
議長	ありがとうございました。プランNo.25 では、どんな講座であったか、１４校の小中学校以外の扱いについてお願いします。
事務局	No.25、73 につきましては、担当課に確認し後日回答させていただきます。 プランNo.25 の確認した内容 ・講座の内容について ネットトラブルの防止、チャット・ラインの入力トラブル、インターネットの上手な付き合い方、情報機器の上手な使い方など ・感想 自身のスマートフォンや情報機器の活用について見直したい 家庭でのルールをしっかり守りたい メールなどは、言葉を選び、発信したい ・講座を実施した１４校以外の取り扱いについて ・学校独自で講座を実施

	プランNo.73の確認した内容 ・贈る本は１２冊あり、その中から選択する 「ホネホネたんけんたい」、「１４ひきのひっこし」、 「ぴっかぴかすいぞくかん」、「てのひらかいじゅう」が、人気が高いとのことです。
議長	その他ございますでしょうか。
委員	プランNo.10番台やNo.46、No.47など子どもたちの安心安全の面について、学校生活の環境整備に関して、気づいた点が２点あります。１点目は参議院選挙の投票で訪れた学校で、外水道の水を受ける周りの石の部分が砕けていて、カバーするように打ち付けられていた板の釘が結構出ていて、とても危ないと思いました。学校でも今一度安全の点検を行っていただきたいと思いました。もう１点は、私の娘の学校で、水泳大会があり、プールサイドで生徒の足の裏がやけどした事例がありました。保育園、幼稚園、小学校でも、外に置きっぱなしの物を不用意に触って火傷をしたりとか、状態が変化して変質されたりとか、危険な状態が起こりうるので、安全面をもう一度確認いただくようお願いしたいと思います。
議長	ありがとうございます。これは要望ですね。是非学校にご報告をお願いしたいと思います。
事務局	体験をしたことのないような環境に子どもたちが、身を置いていることを踏まえて、改めて安全確認をとのご提言として関連機関にもお伝えさせていただきます。
議長	他にご質問はございますでしょうか。
委員	この近隣の幸房小、新和小の児童数がものすごく増えていまして、数年後には1,500とかというむちゃくちゃな数字が出ているようです。学校の適切な配置、また適正規模の観点から見た場合、1,500という数字は本来の教育活動に相当な支障が出るのではないかと思っています。行政も色々検討していると思いますが、児童クラブなどを含め、子どもたちの環境を見ていかなければいけないと思います。いいとこ1,200位ではないかと思いますが、それでもアップアップしていて、これ以上増えていくことは目に見えてわかっています。人数の増加に関

	しては、今言ってすぐ来年からできる事ではなく、早め早めに考えていただければと思い発言させていただきました。どうぞよろしくお願いいたします。
議長	事務局お願いします。
事務局	学校の適正な配置につきましては、教育委員会学務課で通学路と併せ計画的に進めているところでございます。学務課に適正な規模についてもご意見をいただいた旨、伝えさせていただきます。
議長	是非よろしくお願いいたします。 それでは次の議題に入らせていただきます。「第２次三郷市子ども・子育て支援事業計画」の進捗状況等について事務局からご説明願います。
事務局	「第２次三郷市子ども・子育て支援事業計画」の進捗状況等について説明。
議長	委員の皆様からご意見、ご質問がありましたらよろしくお願いいたします。
委員	６ページの⑦子育て短期支援事業、⑧子育て援助活動支援事業（ファミリー・サポート・センター事業）は、国県に準じているのか、三郷独自の取り組みなのでしょうか。これから、中長期的に考えたら、子どもたちは減る訳ですから、預かりの手法も困難をきたしていくのではないかと思います。施設の多岐にわたる使い方、活用の仕方も一つの考えではないかと思いますが、⑦⑧は三郷で考えて作成したものなのか伺いたい。
議長	事務局お願いいたします。
事務局	「子ども・子育て支援事業計画」に位置付けております合計１４事業につきましては、国の子ども・子育て支援新制度に基づく事業でございます。国の子ども・子育て支援交付金を一部活用しながら実施しております。国の共通した事業です。
議長	それでは、議題３です。 「第２次三郷市子ども・子育て支援事業計画」の中間見直しについて事務局からご説明をお願いします。
事務局	「第２次三郷市子ども・子育て支援事業計画」の中間見直しについて説明。

議長	ありがとうございました。事務局から説明がありました。委員の皆さんからご意見、ご質問はありますか。
委員	子どもを見るうえでやはり保育士とか幼稚園の先生方とか人の確保が必要だと思いますが、いつ頃から計画をされているのでしょうか。建物はできても、人が集まらない、人手不足が解消されない、保育が提供できていないという現場の声もあると思いますので、その辺のことを教えていただければと思います。
議長	はい、人材の確保の件ですね。事務局お願いいたします。
事務局	この計画は、利用の見込みに対してどれだけ利用定員を確保する必要があるかということを位置付けているものでございます。委員ご指摘のとおり、保育士の確保は必須になります。埼玉県の潜在保育士の登録制度や各種の補助制度の周知を行い、また、市単独でも補助制度の様々設計しているところです。この計画上の利用定員ついては、保育士確保の方策を並行して行っていくべきものと認識しています。
議長	その他にございますでしょうか。
委員	私も認定こども園をやっておりますので、保育士の確保が非常に大変なところでございます。保育士の紹介業者が数多くあり、新人の方が人材紹介会社へ登録している場合は本園は３２０万から３３０万円位お支払いし、そのうち紹介料として３０％、１００万円位かかっていて、そういう負担が各園でも大きい気がします。短大、専門学校とうまく連携をとって、紹介してもらえればよいのですが、どうしても紹介会社に頼らざるを得ない場合があるので、非常に大変です。もう１つ人数の問題ですけど、幼稚園は去年と今年度比べると約１割園児数が減っています。今、子どもが多いからといってどんどん施設を増やしてしまって、減った時にどうするのかが心配です。新聞で待機児童急減という記事があり、特に０歳児の保育がコロナや在宅勤務が増えて預けなくても自分で見られるといったことやコロナで預けるのが心配など、そういうことでも０歳児が減っています。そういうことを踏まえ、幼稚園の方に、もっと預かり保育を充実させる必要があるという気がしています。
議長	現場の貴重な意見いただきありがとうございます。事務局お願いします。
事務局	三郷市の保育のニーズにつきましては、未就学児童数は、微減が始ま

	っていますが、保育需要がこれまで以上に増えているという状況がございます。令和２年度に４８０人定員５園開園、令和３年度に小規模保育事業を３園開設し、対応してきたところです。幼稚園の預かり保育を充実させていただくことができないか、平成３０年に幼稚園にお集まりいただき、ご説明した際、幼稚園でも預かりは行っているが、国の求める国の補助要件を満たすように行うには、先生が足りず難しいと伺っておりましたので、無理をお願いすることができなかった事情がございます。待機児童対策については、保育所整備だけではなく、他の対策も必要と考えております。例えば、短時間就労の方についてはファミリー・サポート・センターですとか、一時預かりで対応が可能な方もいらっしゃいますので、例えば、子育て支援ステーションほほえみなどでは、そういった保育だけではない、様々な子育て支援のサービスをご紹介させていただいているところでございます。０歳児については、若干の減少が見られますが、やはり育休明けでの１歳から入れたいというご要望が、まだまだ高いところです。今回の計画見直しに際して、既存の保育事業者にアンケート等を取らせていただき、利用定員数の調整を行い、また、いなほ幼稚園の幼保連携型認定こども園の申出がございました。それでもまだ１・２歳児の保育需要を満たすには足りず、保育施設１園の新設を想定した対応を確保方策として計画に盛り込ませていただいたところです。
議長	ありがとうございました。その他にございますでしょうか。
委員	意見として申し述べます。まず、計画の見直しについては反対するものではありません。まず、保育士確保については昨今の状況からだいぶ改善が見られ始めています。０歳児は、この４月で０歳児が定員にならないという保育園が続出しており、地方ではなくて三郷市近隣を含め都市部でそういった状況が起きています。出産適齢期の母親の人数自体が減少していますので、合計特殊出生率が現状のまま推移しても、若干上がったとしても、そもそも生まれてくる子どもが減っていくというような状況ですので、０歳児の保育のニーズが今後回復してくる見込みはさほど高くない状況です。何を申し上げたいかというと、０歳児の定員が減った場合、そこの定員の考え方を柔軟に変更すると、例えば０歳児６人だったところ３人に定員変更をかけやすくすることによって、保育士１人０歳児ですと３人に先生１人ですから、保育士１人を１歳児２歳児にまわすことができる。そうすると例えば、２歳児ですと先生１人増えることによって６人の定員枠を増やすことができます。ですから０歳児が減った分、保育士を１歳児若しくは２歳児にまわすというようなことが柔軟にできるようになると、保育士不足の解消が一気に進むという計算になります。そのためには、定員変更の申請があった場合に、それについて、柔軟に速やかに対応できる体

	制がとれていれば、保育士不足が解消され、また１歳児２歳児の必要とする保育児童数を増やすという考え方を取ることができます。さらに、今、状況としては、ＴＸ沿線以外のところでは、子どもの数の激減が進んでいて、都市部大規模なレジャー施設があるような東京都と直結しているようなところでも、定員割れを起こしている状況になっていますし、都内も定員割れがほとんどです。そういった意味では、受入定員数を増やすこともやりつつ、既存の保育園で弾力運用を柔軟に対応できるようにすると、現状の定員プラス１０％もしくは１５％位の受入枠の拡大が可能になります。保育所の数を急激に増やすのではなく、今後の緩やかな減少に向けて準備を始めるという考え方ができるのではないかと思います。
議長	貴重なご意見ありがとうございました。是非参考にしていただければと思います。その他にございますでしょうか。よろしいですか。 本日の議事につきましては以上でございます。皆様のご協力により議事を滞りなく終了することができました。ありがとうございました。司会を事務局にお返しします。
事務局	会長　進行ありがとうございました。事務局からの報告事項になります。
事務局	６．報告事項 （１）いなほ幼稚園の幼保連携型認定こども園への移行ついて報告。 （２）三郷市子育て家庭における給食費等の負担軽減支援事業について。
事務局	７．その他 三郷市子ども・子育て会議意見調査票の提出をお願いします。８月１２日（金）期限
副会長	８．閉会挨拶 ９．閉会